

令和5年度 共同生活援助事業（介護サービス包括型）
グループホーム「ラルクホーム」事業計画

1 概要

- ・事業所の名称及び定員 ラルクホーム（共同生活住居5か所）
【定員12名、現員8名（令和5年3月1日現在）】
- ・事業所の所在地 名古屋市天白区高島2丁目701番地
- ・事業の目的 地域で家庭的な雰囲気の下、自立した地域生活を送れるよう支援する。
- ・事業所開設年月日 平成13年5月1日
- ・障害者支援施設福寿荘によるバックアップ体制
- ・共同生活住居5か所の名称、所在地
名古屋市天白区高島2丁目701番地 オデッセイ島田
B棟（女性）3か所 定員7名 （住居名）みかーさ、れいーる、ふるーる
C棟（男性）2か所 定員5名 （住居名）ばぐーす、ぷらっと

2 運営方針・重点事項

- ・利用者の権利擁護に努め、地域において自立した生活をおくれるよう日常生活上の各種支援を適切に実施する。
- ・利用者の障害程度の重度化や高齢化に対応し、適切な支援を実施する。
- ・発生して4年目となる新型コロナウイルス感染症はじめ感染防止対策に努め、感染症法による5類移行後も健康的な生活を送れるよう支援する。
- ・火災予防、防災対策に取り組み、利用者が安心安全に生活できるよう支援する。
- ・関係機関、家族等と密接な連携のもとで支援に努めるとともに地域との交流を深める。
- ・ラルクホーム開設20年余を経て、利用者の加齢により健康状態（精神面）、生活面の変化から利用者への支援状況が利用開始時と大きく変化しており、継続した利用が困難な事例が発生している状況にある。

今後、開所当時のグループホームのサービス供給量が少ない状況下において福寿荘からの移行利用を役割とした設置目的、開設であったことを踏まえて、現在ホーム利用者の障害程度が当時と比べて重度化していること、さらに重度化に伴い住居に消防設備基準によるスプリンクラー設備が必要となる場合がある等の各種の課題があり、今後の事業の検討が必要と思われる。

3 各種支援

（1）日常生活支援

- ・自立した生活 地域において自立生活を送るうえで必要となる支援を行う。また、生活を送る上で必要な入浴・排せつ等の身辺処理の助言・介助を行なう。

- ・意思の尊重 利用者が適切な支援を得るために、自己の意思によることができるよう利用者と世話人の関係の構築に努めると共に、常日頃より生活の質の向上を目指し意思決定の際には支援する。
- ・健康管理 医療機関及び福寿荘（バックアップ施設）と連携のもとに通院、健康診断（年1回）、服薬等の支援を実施する。とりわけ、集団生活の場であることから、新型コロナウイルス感染症について利用者の理解のもとに感染防止を実施し、その他の感染症予防に利用者が自ら取り組むなど健康管理に関する支援を行なう。
 日々の生活において、手洗い、消毒、掃除の徹底、各種ワクチン接種の促進などに取り組む。

（2）充実した余暇支援

- ・利用者個々にあった余暇活動の充実。
- ・各種行事の提供
 花見（4月）、七夕（7月）、夏祭り、川遊び・花火大会見学（8月）
 運動会（10月）、クリスマス会（12月）、初詣（1月）、豆まき（2月）
 （毎月 保護者会、年1回 旅行）
 ※実施にあたり新型コロナウイルス感染状況を踏まえ、行事は適時変更など検討していく。

（3）日中活動支援

- ・日中活動の場の確保 利用者の意思を尊重し、常に関係機関と連携をとり安定した日中活動の場の確保に努める。

（4）金銭管理支援

- ・財産管理等の日常生活に必要な管理を行う。

4 家族、地域住民との交流・連携

5 火災予防、災害対策

- ・緊急時や災害時に必要となる対処方法等の援助をしつつ、バックアップ施設や近隣事業所との連携に努め、安全で安心した生活を送れるよう支援する。
- ・防火防災訓練（9・2月）
- ・障害支援程度区分の重度化（区分4以上）に伴う消防設備基準によるスプリンクラー設備の義務化への対応の検討